

EU Indicators

欧州経済指標コメント：6月ドイツZEW景況感

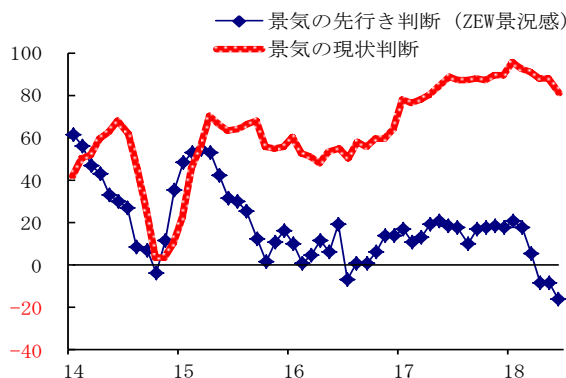
発表日：2018年6月12日(火)

～米欧貿易摩擦が新たな業況悪化要因に～

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

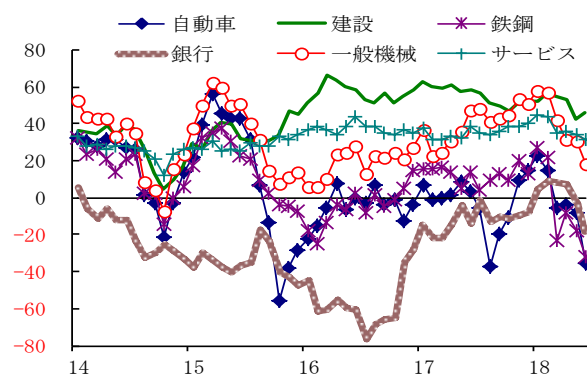
- 6月のドイツのZEW景況感（金融市場関係者の6ヶ月先の景況判断）は▲16.1と、前月からマイナス幅が一段と拡大した。3ヶ月連続で「悪化する」との回答割合が「改善する」との割合を上回った。同時に発表された現状判断は+80.6と高水準を維持しているが、1月の+95.2をピークに5ヶ月連続でモメンタムが悪化している。単月の落ち幅としては、今回の減速局面で最も大きかった。
- 業種別の業況判断は、米国の関税発動を背景とした鉄鋼（▲17.5→▲32.3）、貿易摩擦が自動車分野に拡大するとの懸念を反映した自動車（▲8.6→▲35.7）、最大手行の経営建て直しが難航する銀行（▲3.5→▲18.5）のマイナス幅拡大が顕著。海外景気の減速を背景に、一般機械（+30.1→+18.6）、化学（+29.5→+26.1）、電機（+25.6→+17.6）など輸出部門のプラス幅が縮小。建設（+42.8→+45.7）、情報通信（+55.9→+54.6）、小売（+40.2→+41.8）など内需関連は好調を維持。
- 代表的な企業景況感であるIfoは5月に落ち込みが一服。ただ、今月のZEWの推移から判断する限り、米欧貿易摩擦への警戒が新たな業況悪化要因となりそうだ。ZEW景況感とIfoの先行き判断が前月対比で改善したか/悪化したかの符号条件は、新系列が発表された2005年以降の64%で一致（6月計数は25日発表）。年明け以降の欧州景気の急ブレーキは、寒波やストなど特殊要因が主導してきたが、マインド落ち込みの長期化でそろそろ企業活動への影響が懸念される段階に入ってきた。

■ドイツ：景気の現状・先行き判断



出所：ZEW

■ドイツ：ZEWの業種別景況感



出所：ZEW

■ドイツ企業景況感（季節調整済み）

	2017				2018											
	3Q	4Q	1Q	2Q	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
ZEW景況感（先行き）	14.8	17.9	14.4	-10.8	10.0	17.0	17.6	18.7	17.4	20.4	17.8	5.1	-8.2	-8.2	-16.1	
現状指数	87.0	88.4	92.7	85.3	86.7	87.9	87.0	88.8	89.3	95.2	92.3	90.7	87.9	87.4	80.6	
Ifo景況感（総合）	104.3	105.0	104.1	-	104.2	104.3	104.8	105.2	105.0	104.8	104.1	103.3	102.2	102.2	-	
現状指数	106.5	106.9	107.7	-	106.2	106.1	107.0	106.6	107.1	108.3	108.0	106.7	105.8	106.0	-	
先行き指数	102.0	103.1	100.6	-	102.2	102.5	102.7	103.7	102.9	101.5	100.3	100.1	98.7	98.5	-	
PMI製造業指数	59.3	62.1	60.0	-	59.3	60.6	60.6	62.5	63.3	61.1	60.6	58.2	58.1	56.9	-	
サービス業指数	54.1	54.9	55.5	-	53.5	55.6	54.7	54.3	55.8	57.3	55.3	53.9	53.0	52.1	-	

出所：ZEW、Ifo、IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。